

<白金標準先物、インフレ高で経済指標の悪化に注意・・・>



(出所：オアシス)

25日に発表したドイツIFO経済研究所の3月の独企業期待指数は、ロシアのウクライナ侵攻を受け85.1と前月の98.4から大幅に低下し2020年5月以来の低水準となっている。またミシガン大消費者信頼感指数・確報値が事前予想を下回るなど、インフレ高を受けて消費マインドが低下している。

特に金価格に比べ出遅れ感が強い白金価格は工業品の一面でもあり、ウクライナ情勢を受けたインフレ高で景気減速懸念が戻りを抑える値動きに結び付いている。しかし世界の対ロシア経済制裁処置は、ロシア産のニッケルやアルミ、パラジウムの輸出障害が今後強まると見られ、ロシア要因は白金価格にとって「諸刃の剣」の意味合いが強い。

特に今週は、米国CPI、ADP雇用統計、中国の製造業PMI、米国雇用統計、米国自動車販売の発表が控えており、サプライチェーンの混乱でインフレ高の悪影響が指標を低下させている可能性が高く、下値追いの展開には注意が必要と思える。

しかし4月から3年ぶりのプラチナ鉱山で賃金交渉が開始されるため、2013年の賃金交渉と同様に波乱の交渉になる可能性が高く、将来的な買い場の提供になる週と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではシグナルは切り下げながら、MACDがシグナルを上回る事が出来ていない。ただRCIは短期が上昇し長期は下げ止まるなど、目先の調整を示唆している。特に10日移動平均線が40日移動平均線を下回る可能性が高く、日足は3800円へ向けた調整安の動きに注意が必要である。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 971,500 円(2022 年 3 月 28 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 3 月 28 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>